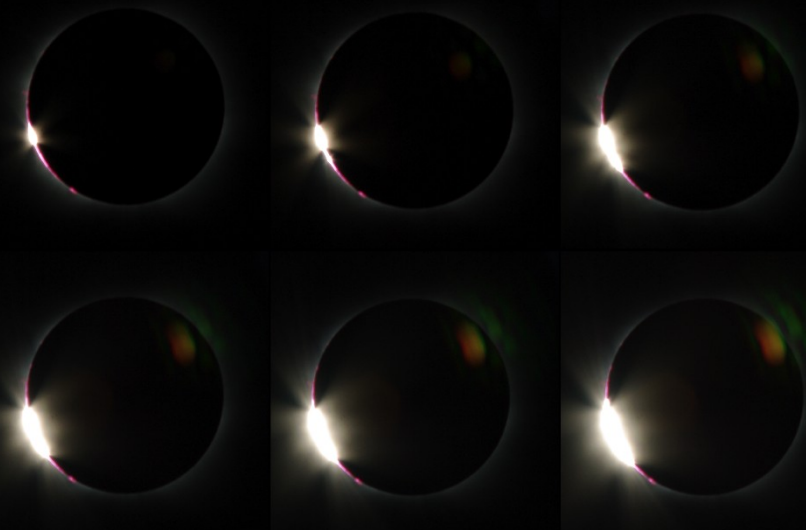


2010.7.11 南太平洋皆既日食 at イースター島

100807edit

「ダイヤモンドリングの3秒ごとの変化」 2010. 7. 12 05:13 (JST)

第3接触直後15秒間のダイヤモンドリングの3秒ごとの変化



「第2接触直後のプロミネンス」

05:08 (JST)



「イースター島といえば
やはりモアイ」

「第3接触直前のプロミネンス」

05:13 (JST)



共通データ :

撮影日時 : 2010. 07. 12 05:08~05:13 (JST)間に撮影 / 露出 : 1/125sec / 撮影者 : 成富 弘

撮影地 : イースター島 ハンガア村 / 画像処理&編集 : 片山 徹 / カメラ : PENTAX K20D (ISO100)

レンズ : PENTAX DA55-300mm F4-5.8ED+リアコンバート A2X-S (600mm F16で撮影)

画像処理ソフト : StellaImage6 + Photoshop5.0 / 編集ソフト : OpenOffice.org 3

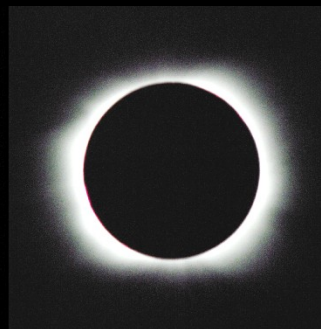
処理PC : SONY VAIO VGN-NS50B/L (インテル Core2 Duo P8400 2.26GHz メモリ4GB)

「イースター島での内部コロナ」 第2接触から第3接触まで05:08~05:13 (JST)に撮影した15コマのうち

左) 15コマ中のセンターの1枚

中) 15コマ中のセンターの5枚を加算コンポジット

右) 15コマを全て加算コンポジット



当日朝のイースター島は晴れ、曇り、雨を短時間で繰り返す天候で、昨年のトカラ列島の悪夢がよぎる中、第一接触から10分後からはほぼ雲がかかることはなく、一安心。皆既時は空に黒い太陽、地上はコロナに照らされてできた木々の影という神秘的な状況で、「生きてよかった」という思い以外には出てこない感動の4分間でした。夜のように暗くなるかと思っていましたが、思っていた以上にコロナが大きく広がり、日没直後程度の明るさでした。北西方向に広がる南太平洋の海を見ると、明るく光る海面と、暗く淀んだような海面が見え、月の影と思われる境界がなんとなく見えていました。一生に一度は皆既日食を見てみたいという思いで、30時間以上かけて地球の裏側まで行ってきましたが、目の当たりにすると、もう一度見てみたいという思いに駆られます。写真、ビデオを撮るのも良いですが、やっぱり皆既日食は肉眼で見るのが最大の贅沢。(成富 弘)

「イースター島から帰ってきた所」というメールを7/18深夜「電大天文研OB」の成富氏からもらってビックリ！ さっそく画像を送ってもらって色々処理して編集してみました。(片山 徹)